962

授業科目名	**博物館概論**				
担当教員名	山下晃平				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

博物館とは何でしょうか。今日ではミュージアムという言葉の方が馴染みがあるかもしれません。本科目では、学芸員養成課程として学ぶことになる博物館学各論の原論として、博物館の定義や種類、機能、法規を理解し、博物館運営に従事する学芸員の役割について学びます。その上で、国内外の博物館の歴史を踏まえながら、社会との関わりを通して変容する博物館の現状や様々な活動を知り、これからの博物館運営のあり方について考察します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1(1).芸術・デザインに関する知識と理解	博物館の歴史や機能、学芸員の役割についての基礎的知識の理解。	学術的な学修を深め、専門分野の知識を確実なものとして、自身の課題やテーマについて客観的な根拠に基づき、論述したり発表することができる。
2. DP2(4).自律的な学習力	多種多様な博物館運営のあり方を比較・検討する分析力の獲得。	与えられた課題を成し遂げるにあたり、質の高い成果を得るため、自らさまざまなことに興味を持ち、自律的な態度で取り組むことができる。
汎用的な力		
1. DP5(1).忠恕の心		相手が伝えたいことを共感的に理解し、自分の考えや思いを適切に伝えられるよう感情コントロールを行い、取り組みのモチベーションを維持することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。
授業中の私語の禁止。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
各回の授業中課題（コメント作成）	20 %	:	授業内容を理解し、自分の視点で捉え直して考察することができるか。
中間小レポート	20 %	:	講義で得た情報を整理した上で、自分の関心に照らして批判的に論じることができるか。
期末試験	60 %	:	講義で得た知識を適切に用いることができるか。またその知識を踏まえて客観的に論じることができるか。試験の素点に基づいて到達度を評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

・鶴見英成著『博物館概論〔改訂〕』（放送大学教材）（放送大学教育振興会、2023年、ISBN9784595323942）。
・栗田秀法編『現代博物館学入門』（ミネルヴァ書房、2019年、ISBN9784623084661）。
・三岡寿郎『変貌するミュージアムコミュニケーション―来館者と展示空間をめぐるメディア論的想像力』（せりか書房、2017年、ISBN9784796703659）。
・伊藤寿朗『市民のなかの博物館』（吉川弘文館、1993年、ISBN9784642073967）。

その他、授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

講義毎に適宜資料を配布します。

近年、美術館、博物館に加え、国際美術展や芸術祭など多様な芸術の現場が点在しています。 講義に加え、積極的に現場に出向き、自身の情報・経験を更新しましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： その場で相談のうえ別途日時を設ける場合もある。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**イントロダクション：変貌するミュージアムと博物館学** 今日の博物館の諸相及び博物館学の概要を理解する。	参考文献を参照し、博物館学とは何か、その目的や構成について考察しよう。/配布資料を参照し、要点となる語句とその意味について整理し直しましょう。	4時間
第2回	**博物館学の目的・方法・構成** 学芸員養成課程で学ぶ博物館学の概要と目的について学ぶ。	参考文献を確認しながら、博物館学の目的や体系について確認しよう。/配布資料を参照し、特に博物館学の研究区分とその目的についてまとめよう。	4時間
第3回	**博物館の定義と関係法令** 博物館の種類や区分など制度的な位置付けや関連する法令、社会的な役割について理解する。	参考文献を参照しながら、国内外の博物館の定義について調べておこう。/配布資料及び講義内容を整理し直し、博物館の定義や種類について理解を深めよう。	4時間
第4回	**博物館と人** 学芸員の役割について、その定義や実際の業務について学ぶ。	配布資料や参考文献を読み返し、学芸員の業務・役割について理解を深めよう。/また関心のある、あるいは紹介した博物館を実際に見学しよう。	4時間
第5回	**諸外国の博物館の歴史** 欧米及び海外での博物館の成立とその変遷について学ぶ。	参考文献を参照し、博物館の誕生に関わる社会的条件について考察しよう。/配布資料や参考文献を読み返し、博物館の歴史とその背景について理解を深めよう。	4時間
第6回	**日本の博物館の歴史** 諸外国に対して日本における博物館の成立とその変遷について学ぶ。	配布資料や参考文献を読み返し、博物館の歴史とその背景について理解を深めよう。/特に海外と比較した場合の日本の特徴について考察しよう。	4時間
第7回	**博物館の現状と鑑賞** 多様化する博物館機能を学び、博物館と鑑賞者との関わりについて考察する。	配布資料や講義内容を整理し直し、今日の博物館機能について理解を深めよう。/特に博物館の今日的な取り組みに注目し、実際に博物館を見学してみよう。	4時間
第8回	**博物館とコレクション1：収集・保存** 資料の収集・保存の基本的なあり方について学ぶ。	参考文献を参照し、収集・保存のプロセスについて確認しておこう。/配布資料や参考文献を読み返し、コレクションすることの社会的意義について理解を深めよう。	4時間
第9回	**博物館とコレクション2：研究・展示** 博物館機能としての研究・展示の基本的なあり方について学び、資料を所蔵すること意義について考察する。	配布資料や参考文献を読み返し、博物館における研究・展示について理解を深めよう。/また特に作品保存の観点から払われるべき留意点についてまとめ直そう。	4時間
第10回	**博物館運営：教育普及** 博物館運営における教育普及活動の意義や手法について学ぶ。	配布資料を読み返し、拡大する教育普及の役割についてまとめ直そう。/また特定の博物館のワークショップに関する資料を確認し、参加してみよう。	4時間
第11回	**博物館と情報1：資料論へ向けて** 博物館運営における情報・メディアとの関わりについて学ぶ。	博物館運営とメディアとの関わりについて、自身の鑑賞経験に照らして考察しておこう。/配布資料を読み返し、情報やメディアの意義について理解を深めよう。	4時間
第12回	**博物館と情報2：芸術資源とアーカイヴ** 今日のアーカイヴの諸相を踏まえ、博物館資料の保存・修復の意義について考える。	アーカイブズとは何かについて事前に調べておこう。/配布資料やWebサイトを参照し、アーカイヴの意義についてまとめ直そう。	4時間

第13回	**現代博物館と地域コミュニティ** 拡張する博物館機能と地域連携の視点から、博物館教育のあり方について考える。	配布資料を読み返し、博物館と地域との関わりについて理解を深めよう。/またこれまでの講義を踏まえて博物館運営の展開について整理し直そう。	4時間
第14回	**エピローグ：現代社会と拡張する博物館機能** これまでの博物館運営や学芸員の役割を総括し、現代社会における博物館の意義について考える。	配布資料を通して講義内容の振り返りを行い、博物館学の構成や博物館の社会的役割についてさらに考察を深めよう。/また現代社会の諸相に照らした博物館運営の今後の可能性についても考察してみよう。	4時間

962

授業科目名	**博物館教育論**				
担当教員名	水谷亜希				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	教育普及担当の研究員として博物館に勤務しています。ボランティアの育成や運営、ワークショップや展示の企画、印刷物やウェブコンテンツの作成など、様々な教育活動に携わっています。（全14回）				

授業概要

博物館教育（ミュージアム・エデュケーション）は、博物館を利用する人々の自由な学びを助け、深めるための活動です。近年、博物館活動の中でも重要視されるようになってきました。本授業では、日本や諸外国における博物館教育の変遷と意義を学ぶと共に、実践に必要な知識と方法を習得することを目指します。
そのために、現場で行われている教育プログラムを体験し、資料をもとに考察・ディスカッションを行い、最終的には自身で教育プログラムを企画し、期末レポートとして提出します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1(1).芸術・デザインに関する知識と理解	博物館教育（ミュージアム・エデュケーション）に関する知識と理解	学術的な学修を深め、専門分野の知識を確実なものとして、自身の課題やテーマについて客観的な根拠に基づき、論述したり発表することができる。
2. DP2(4).自律的な学習力	講師が提示する資料や、自分で収集した資料をもとに、課題に取り組む力	与えられた課題を成し遂げるにあたり、質の高い成果を得るため、自らさまざまなことに興味を持ち、自律的な態度で取り組むことができる。
汎用的な力		
1. DP5(1).忠恕の心		相手が伝えたいことを共感的に理解し、自分の考えや思いを適切に伝えられるよう感情コントロールを行い、取り組みのモチベーションを維持することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
各回の授業内小レポート	50 %	： 各回の授業内容を踏まえ、自身の考えが述べられているかを評価します。
試験（期末レポート）	50 %	： 授業で学んだことをもとに、題材についての正確な情報を収集し、目的が明確で、実践可能な、独創的な教育プログラムが企画できているかどうかを評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業ごとに適宜資料配布・文献紹介を行います。

履修上の注意・備考・メッセージ

授業中に問いかけをしたり、教育プログラムの体験や、グループワークの時間を設けたりしますので積極的に発言をしてください。
本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
自主的な博物館見学、教育プログラムへの参加など「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業終了後

場所： 授業のある教室

備考・注意事項： 授業終了後、またはメールでの質問に応じます（akituseirei@gmail.com）。
メールには必ず氏名と所属を記してください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**博物館教育とは何か** 「博物館教育」とは何を指すのか、その意義と理念、国内外での変遷と実践について学びます。 全14回の講義の概要と成績評価の方法についても説明します。	自分の記憶にある一番古い「博物館体験」について思い出し、何が印象に残っているのか、なぜ印象に残ったのか、今の自分への影響の有無を考え、文章にまとめる。	4時間
第2回	**教育活動の手法（1）対話型鑑賞** 現場で行われている教育活動のうち、「対話型鑑賞」について取り上げ、具体的な手法・効果について学びます。	授業で紹介する「対話型鑑賞」を実践している博物館について本やインターネットを用いて資料を収集し、その特徴を文章にまとめる。	4時間
第3回	**教育活動の手法（2）ハンズ・オン** 現場で行われている教育活動のうち、「ハンズ・オン」について取り上げ、具体的な手法・効果について学びます。	授業で紹介する「ハンズ・オン」を実践している博物館について本やインターネットを用いて資料を収集し、その特徴を文章にまとめる。	4時間
第4回	**教育活動の手法（3）ワークシート／セルフガイド** 現場で行われている教育活動のうち、「ワークシート」「セルフガイド」について取り上げ、具体的な手法・効果について学びます。	授業で紹介する「ワークシート」「セルフガイド」を実践している博物館について本やインターネットを用いて資料を収集し、その特徴を文章にまとめる。	4時間
第5回	**教育活動の手法（4）子ども向け展示** 現場で行われている教育活動のうち、「子ども向け展示」について取り上げ、具体的な手法・効果について学びます。	授業で紹介する「子ども向け展示」を実践している博物館について本やインターネットを用いて資料を収集し、その特徴を文章にまとめる。	4時間
第6回	**教育活動の手法（5）音声ガイド／デジタル技術の活用** 現場で行われている教育活動のうち、「音声ガイド」「デジタル技術の活用」について取り上げ、具体的な手法・効果について学びます。	授業で紹介する「音声ガイド」「デジタル技術の活用」を実践している博物館について本やインターネットを用いて資料を収集し、その特徴を文章にまとめる。	4時間
第7回	**人材養成の場としての博物館** 職員とは異なる立場（ボランティア等）で博物館に関わり、専門的な技術を磨いたり、その後の人生に技術を役立てたりする人達がいます。人材養成の場としての博物館について学びます。	授業の内容を踏まえ、自分なら博物館とどのように関わることができるか、どんな活動をすることができるか考え、文章にまとめる。	4時間
第8回	**博物館と学校教育** 博物館教育と学校教育の違いについて学ぶとともに、両者の連携事業のメリットや課題についても、具体的な事例をもとに考察します。	自分の体験をもとに、学校での学びと、博物館での学びの違いについて考察し、文章にまとめる。	4時間
第9回	**複製の活用と課題** 博物館の教育活動において利用される「複製」について、その種類と、活用方法、メリットや課題について、具体的な事例をもとに考察します。	「実物」と「複製」、それぞれの特性と役割について、授業の内容をもとに考察し、自分の考えを文章でまとめる。	4時間
第10回	**近年の動向** 感染症の流行への対策、ミュージアムグッズの積極的な展開など、近年の博物館の動向について、博物館教育との関連もふまえながら、具体的な事例を取り上げ、考察します。	オンラインで実施されている博物館の教育プログラムや、ミュージアムグッズについて情報収集し、授業の内容をもとに考察し、自分の考えを文章でまとめる。	4時間

第11回	**プログラムの企画と評価／期末レポートの説明** 教育プログラムを企画するにあたって、どのような工夫や注意が必要なのか、また、実施後の評価はどのように行われるのかについて学びます。期末レポートの作成にあたっての注意点、評価の基準についても説明します。	期末レポートの作成に備え、博物館の見学や、本やインターネットを用いた資料収集を行う。	4時間
第12回	**異分野との連携／地域との連携** 博物館の中にも、歴史・美術を扱う人文系の博物館と、自然史・科学などを扱う自然科学系の博物館があります。分野を超えて連携し、教育活動を行う具体例を取り上げ、その意義を考察します。 さらに、博物館は立地している地域の人々との関わりなしには存在できません。地域の人々や団体、企業などと連携して教育活動を行う具体例を取り上げ、その意義を考察します。	異なる分野の博物館が協力したり、地域の人々と協力したりすることで、どのような企画が実施可能か、実在する博物館を例に自分で具体的なプランを立て、図や文章でまとめる。	4時間
第13回	**海外の事例** 博物館教育が早くから盛んだった欧米や、その他諸外国の例を取り上げ、日本の博物館教育との比較検討を行います。	海外での博物館教育について、授業で取り上げた以外の館について本やインターネットを用いて資料を収集し、その特徴を文章にまとめる。	4時間
第14回	**振り返りとこれからの展望** これまでの授業内容について振り返りを行うとともに、これからの博物館教育や、博物館そのものの在り方について、考察します。	100年後の博物館はどうなっているか、本授業や他の授業で得た知識や経験をもとに考え、図や文章にまとめる。	4時間

962

授業科目名	**博物館資料論**				
担当教員名	植田憲司				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	京都府京都文化博物館、京都芸術センター、高知県立美術館、文化庁において学芸員や文化行政担当としての実務経験がある。（全14回）				

授業概要

博物館・美術館における博物館資料の意義、活用、取り扱い、それを取り巻く環境について学ぶ。具体的には、博物館の機能と資料との関わりに関する基礎的な知識を学び、学芸員の役割について理解する。また、博物館・美術館の調査見学を通して、実際に展示している博物館資料を調査・分析し、授業内で短い発表を行うことを予定している。
授業後半では、博物館資料の展示やその他の活用方法、輸送や保険のシステムなどの実際の現場の知識について学ぶ。また、新しいメディアテクノロジーと博物館資料との関わり、博物館資料の公共性について考えることで、博物館資料を取り巻く社会的な役割を学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1(1).芸術・デザインに関する知識と理解	博物館の機能、博物館における資料の種類についての基礎的な知識を学び、博物館資料の意義や活用について理解することができる。	学術的な学修を深め、専門分野の知識を確実なものとして、自身の課題やテーマについて客観的な根拠に基づき、論述したり発表することができる。
2. DP2(4).自律的な学習力	博物館資料の活用方法を考えることができる。どのようなものが博物館資料となり得るか考えることができる。	与えられた課題を成し遂げるにあたり、質の高い成果を得るため、自らさまざまなことに興味を持ち、自律的な態度で取り組むことができる。
汎用的な力		
1. DP5(1).忠恕の心		相手が伝えたいことを共感的に理解し、自分の考えや思いを適切に伝えられるよう感情コントロールを行い、取り組みのモチベーションを維持することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
授業の参加態度	30 %	：	授業への参加態度を評価する
リアクションシート、中間課題	30 %	：	各回の授業でのリアクションシート、および博物館の調査を通して、博物館資料に関する知識の理解を評価する
期末レポート	40 %	：	博物館資料に関する知識の理解、考えについて評価する

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

栗田秀法編『現代博物館学入門』ミネルヴァ書房、２０１９年、ISBN 978-4623084661
日本博物館協会 編『博物館資料取扱いガイドブック　―文化財、美術品等梱包・輸送の手引き―』 日本博物館協会、2012年（改訂版 2016年、第二次改訂

2023年）、 ISBN 978-4324112212
佐々木利和・湯山賢一『博物館資料論』放送大学教育振興会、2012年（改訂新版）、ISBN 978-4595313455

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業後の時間

場所： 授業のある教室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**博物館の機能と博物館資料** 博物館・美術館の機能と博物館・美術館における資料や作品について学ぶ。	講義のレジュメや配布資料、参考書について予習・復習すること	4時間
第2回	**博物館資料の概念** 博物館資料という概念について学ぶ。	講義のレジュメや配布資料、参考書について予習・復習すること	4時間
第3回	**博物館資料の収集** 博物館資料の収集について学ぶ。	講義のレジュメや配布資料、参考書について予習・復習すること	4時間
第4回	**博物館資料の保存と管理（１）展示室と収蔵庫** 博物館資料の保存と管理について学ぶ。	講義のレジュメや配布資料、参考書について予習・復習すること	4時間
第5回	**博物館資料の保存と管理（２）収蔵庫と貸出** 博物館資料の保存と管理について学ぶ。	講義のレジュメや配布資料、参考書について予習・復習すること	4時間
第6回	**中間まとめ・振り返り** これまでの学習内容のまとめと振り返りを行う。 中間ルーブリックを実施し、学生へフィードバックを行う。	講義のレジュメや配布資料、参考書について予習・復習すること	4時間
第7回	**博物館の調査見学（１）博物館の展示・教育普及活動** 博物館・美術館の見学を行い、資料がどのように展示されているかを学ぶ。 この回は、第８回と合わせて、日程の近い土曜日または日曜日を利用して見学を行う。 詳細は講義の中で指示する。	講義のレジュメや配布資料、参考書について予習・復習すること	4時間
第8回	**博物館の調査見学（２）博物館の収集・保存・研究活動** 博物館・美術館の見学を行い、資料がどのように展示されているかを学ぶ。 この回は、第7回と合わせて、日程の近い土曜日または日曜日を利用して見学を行う。 詳細は講義の中で指示する。	講義のレジュメや配布資料、参考書について予習・復習すること	4時間
第9回	**博物館の調査見学のふりかえり** 博物館・美術館施設の調査見学を通して、博物館資料の実際を学ぶ。	講義のレジュメや配布資料、参考書について予習・復習すること	4時間
第10回	**博物館資料の輸送と保険（１）美術品輸送** 博物館資料の輸送方法や保険のシステムについて学ぶ。	講義のレジュメや配布資料、参考書について予習・復習すること	4時間
第11回	**博物館資料の輸送と保険（２）美術品補償制度** 博物館資料の輸送方法や保険のシステムについて学ぶ。	講義のレジュメや配布資料、参考書について予習・復習すること	4時間
第12回	**博物館資料の保存・修復（１）保存・修復の原則** 博物館資料の保存・修復について学ぶ。	講義のレジュメや配布資料、参考書について予習・復習すること	4時間
第13回	**博物館資料の保存・修復（２）保存の環境** 博物館資料の保存・修復について学ぶ。	講義のレジュメや配布資料、参考書について予習・復習すること	4時間
第14回	**ふりかえり** これまでの講義の振り返りを行う。 最終ルーブリックの実施、振り返りシートの作成、学修成果の可視化（ポートフォリオ）を行う。	講義のレジュメや配布資料、参考書について予習・復習すること	4時間

962

授業科目名	博物館情報・メディア論				
担当教員名	嶋本尚志				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	京都の寺院での学芸員業務を経験。展覧会の企画・実施や事務などを担当。(全14回)				

授業概要

博物館は多くの情報を持っており、その情報をどのように活用していくかが重要な課題である。また、最近の展示や情報活動では映像メディア・マルチメディアといった多くのメディアを活用している。博物館が社会に向けて情報を的確に発信するためには、それらのメディアに関する知識も必要であるといえる。本講義では、展示活動などの博物館に関する情報活動やメディアのあり方、さらには一般的な情報リテラシーといったことなどについて、その特徴や問題点などを考える。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1(1).芸術・デザインに関する知識と理解	博物館・学芸員が文化財について行う情報活動に関する知識を身につける。	学術的な学修を深め、専門分野の知識を確実なものとして、自身の課題やテーマについて客観的な根拠に基づき、論述したり発表することができる。
2. DP2(4).自律的な学習力	実際の博物館で情報技術がどのように利用され、どのような情報活動が行われているかを、自身で調べるようにする。	与えられた課題を成し遂げるにあたり、質の高い成果を得るため、自らさまざまなことに興味を持ち、自律的な態度で取り組むことができる。
汎用的な力		
1. DP5(1).忠恕の心		相手が伝えたいことを共感的に理解し、自分の考えや思いを適切に伝えられるよう感情コントロールを行い、取り組みのモチベーションを維持することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末試験	70 %	： 博物館学芸員に必要な情報リテラシーや情報発信・管理の考え方が身についているかという点を、期末レポートで評価します。
コメントシート・小レポート	30 %	： 毎回の講義内容に関する事項について、自身の考えが述べられているかという観点から評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献：授業中に適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、博物館が行っている情報活動や日常的なIT・情報に関するニュースを調べるなどし、授業の内容を丁寧に復習

し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業時間の前後

場所： 授業を行う教室

備考・注意事項： 質問は授業の前後に答えます。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**博物館と情報社会** 社会との関わりの中で、博物館の情報活動がどのように行われているかを学ぶ、また「情報」とは何か考えられるよう、基礎的な知識を学習する。	博物館の情報活動について調べる	4時間
第2回	**博物館活動と「見る」教育** 視聴覚教育の考え方、情報メディアやIT機器の利用が博物館教育の中でどのように使われているか。	博物館における視聴覚メディア、教育についての復習	4時間
第3回	**メディア発達の歴史** 文字・写真・映像などのメディアが時代とともにどのように発達し、社会へどのような影響を与えてきたかを概観する。	メディアがどのように発達してきたかを復習	4時間
第4回	**認識と記憶のメカニズム** 人間の認識と記憶のプロセスがどのようになっているか、そのためにコミュニケーションで起こりうる問題点について	人間の認識と記憶についての復習	1時間
第5回	**教育メディアとしての情報機器** 博物館・学校などの教育の場での情報メディアの利用法やその効果について	博物館教育で有効なメディアがどのようなものなのか調べる	4時間
第6回	**ネットワーク社会** インターネットなどネットワークを中心とする現代社会の特徴や問題点について	現在のネットワーク社会について復習	4時間
第7回	**メディア・リテラシー１　情報リテラシーの基本** 情報社会の中での情報の取り扱い方の考え方、情報リテラシーとはどのようなことかについて	情報リテラシーの基本についての復習	4時間
第8回	**メディア・リテラシー２　コンピュータとインターネット** インターネットの仕組みや特徴、ハードとしてのコンピュータの展開、知的財産の保護について	ネットワーク社会の技術的な特徴や問題点を復習	4時間
第9回	**メディアリテラシー３　ネットワーク時代のメディアリテラシー** 諸外国のメディア教育の事例紹介、メディアリテラシーの実践	現在のメディアの問題点について調べる	4時間
第10回	**博物館情報の管理と公開** 博物館の情報発信のあり方や課題、博物館資料の情報管理がどのようになされているか	博物館の情報管理についての復習	4時間
第11回	**情報の視覚化** 情報の視覚化について、ピクトグラムなどの事例から、その意義を考える。	視覚化など情報を効果的伝える方法を調べる	4時間
第12回	**情報発信としての博物館展示１　博物館展示の考え方** 博物館の展示の考え方や展示の種類・特徴について	博物館展示の概念や特徴を調べる	4時間
第13回	**情報発信としての博物館展示２　展示空間と情報発信** 博物館展示の構成や利用者への情報提供について	博物館の情報発信についての復習	4時間
第14回	**博物館展示と情報メディアの利用** 博物館で利用されているメディアの事例や利用者の反応、博物館での情報メディア利用の現代・将来的課題について	博物館教育において効果的なメディアについて調べる	4時間

963

授業科目名	**博物館資料保存論**				
担当教員名	岩田真由子				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

博物館では、博物館で収集した資料を良好な状態で保存するために様々な努力が行われている。本科目では、これらの博物館資料を保存するための科学的方法に関する知識の習得を図る。資料の材質と劣化要因を知り、それらの資料に適切な保存環境や環境づくりについて学ぶ。あわせて、災害などに対する危機管理や、資料の活用と保存修復についても学ぶ。また、博物館資料を含む文化財を取り巻く国内外の様々な問題を取上げ、文化財を保存する難しさについても言及する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1(1).芸術・デザインに関する知識と理解	博物館資料の保存に関する基礎的知識	学術的な学修を深め、専門分野の知識を確実なものとして、自身の課題やテーマについて客観的な根拠に基づき、論述したり発表することができる。
2. DP2(4).自律的な学習力	文化財保存に関する問題提起と課題解決	与えられた課題を成し遂げるにあたり、質の高い成果を得るため、自らさまざまなことに興味を持ち、自律的な態度で取り組むことができる。
汎用的な力		
1. DP5(1).忠恕の心		相手が伝えたいことを共感的に理解し、自分の考えや思いを適切に伝えられるよう感情コントロールを行い、取り組みのモチベーションを維持することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

・その他(以下に概要を記述)

授業の中間段階および最終段階において、ルーブリックを用いて、学修到達状況を確認し、学生へフィードバック行います。文章での振り返りも行います。これによって学生たちは自分の成長の度合いを自分で知ることができます。演習授業の制作物は、学修成果ポートフォリオにまとめていきます。以上を総合して評価を行います。

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	70 %	： 博物館資料の保存に関する知識の修得や理解度について評価する。
受講態度	30 %	： 知識取得に対する意欲や積極性を評価する。ルーブリックに基き評価し点数化する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に随時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

4回生の「博物館実習」の土台となる授業であり、基本的な知識を十分に獲得しておいてほしい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業のある教室

備考・注意事項： 授業の前後の時間に質問に対応。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**なぜ博物館資料を保存するのか―目的と意義―** 博物館資料を保存する重要性について考える。	ノートと配布資料を読み直し、なぜ資料を保存する必要があるのか復習する。	4時間
第2回	**資料の伝統的保存方法** 正倉院宝物がどのように保存されてきたのかについて学ぶ。	正倉院の歴史と正倉院宝物について復習する。	4時間
第3回	**資料保存の環境と条件（１）温度と湿度** 資料の劣化を防止するために博物館が行っている温湿度管理について学ぶ。	配布プリントを読み直し、資料の劣化を招く温湿度について復習する。	4時間
第4回	**資料保存の環境と条件（２）照明と光** 資料の劣化を防止するために博物館が行っている照明の工夫について学ぶ。また、照明の光の知識についても学ぶ。	授業のノートと配布プリントを確認し、博物館の照明について復習する。	4時間
第5回	**資料保存の環境と条件（３）生物被害とＩＰＭ** 資料の劣化・破損を防止するために博物館が行っている虫害対策について、ＩＰＭ（総合的有害生物管理）を中心に学ぶ。	全国の博物館で行われているIPMの実例を確認し、授業内容に対する理解を深める。	4時間
第6回	**資料保存の環境と条件（４）空気汚染** 文化財に対する空気汚染の影響を概観し、資料の劣化を防止するために博物館が行っている空調管理について学ぶ。	全国の博物館の空調管理の実際について確認し、授業内容に対する理解を深める。	4時間
第7回	**資料保存の環境と条件（５）災害①被災資料の救出と修復** 自然災害の際にどのように資料を救出しその保全を図るのかについて学ぶ。	授業内容をふまえ、被災資料の救出と修復に関する問題点について考える。	4時間
第8回	**資料保存の環境と条件（６）災害②資料の被災防止と対策、保存活動** 資料を災害から守るため、日頃からどのような対策を講じるべきなのか、実例から学ぶ。 中間ルーブリックの実施、学生へフィードバック。	授業内容をふまえ、全国のどのような組織が資料の被災防止活動に取り組んでいるのか調べる。	4時間
第9回	**資料の保存処理** 文化財の劣化・破損を防ぐため、主に埋蔵文化財に施される保存処理について学ぶ。	授業内容をふまえ、全国の埋蔵文化財の保存に関わる施設でどのような資料の保存が行われているのか調べる。	4時間
第10回	**資料の保存修復** 資料の修復について、原則と課題について学ぶ。	授業内容をふまえ、資料の保存修復の様々な実例を調べる。	4時間
第11回	**博物館資料保存の課題（１）文化財の保存について** 文化財の保存に関する課題について、各地の実例を取り上げ考える。	授業で取り上げたもの以外に、日本国内の実例を探し、何が問題となっているのか調べる。	4時間
第12回	**博物館資料保存の課題（２）文化財返還問題** 文化財を取り巻く問題について、国際的視点から考える。	授業で取り上げたもの以外に、どのような文化財返還問題があるのか調べる。	4時間
第13回	**博物館資料の輸送・梱包** 資料の破損要因になりかねない輸送の注意点や、梱包方法について学ぶ。	授業内容をふまえ、過去の特別展で行われた大掛かりな資料の輸送について調べる。	4時間
第14回	**アーカイブ・デジタルアーカイブ** アーカイブについて確認し、日本におけるアーカイブの歴史を概観する。また、文化財のデジタル情報での記録・保存について学ぶ。最終ルーブリックの実施、振り返りシートの作成、学修成果の可視化（ポートフォリオ）	ノートと配布資料を読み直し、日本のアーカイブの歴史について復習する。また、授業内容をふまえ、各博物館のデジタルアーカイブについて調べる。	4時間

963

授業科目名	**博物館展示論**				
担当教員名	内村周				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	西宮市大谷記念美術館の学芸員として約20年間勤務しています。展覧会の企画、運営のほか、図書・写真資料の管理、広報業務などに携わっています。大学からの博物館実習生受け入れも担当しています。（全14回）				

授業概要

美術館や博物館では多数の展覧会が開催されているが、それらはどのように企画され、どのような工程を踏んで開催されているのであろうか。この授業では1,000点を超す西宮市大谷記念美術館の所蔵品をもとにした「展覧会」の企画立案を行うことで、展覧会を企画、開催することを体験する。展覧会で作品を展示するには、何らかの意図でその作品を選定し、適切な展示順を決めなければならない。そのために必要な知識や技術を、座学や実技、学外見学を通して学習する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1(1).芸術・デザインに関する知識と理解	作品展示に関する背景を理解し、個々の展示行為が持つ意味を的確に理解する能力を身に着ける。	学術的な学修を深め、専門分野の知識を確実なものとして、自身の課題やテーマについて客観的な根拠に基づき、論述したり発表することができる。
2. DP2(1).論理的な文章表現力	展示プランを発表する講義において、どのような意図を持って展示を行うのか、論理的かつ的確に説明する能力を身につける。	これまでに修得した基礎的な文章表現力を応用して、論述テーマについて深く考察し、客観的根拠を引用、参照するなどして、テーマを研究した成果を正しく伝える文章表現力を身につける。
汎用的な力		
1. DP3(1).課題発見のための情報収集力		与えられた課題や問題について、提供された情報に加え、積極的に独自の調査を行い、必要な情報を正しく収集することができる。
2. DP3(2).本質を明らかにする分析力		課題解決のために収集した情報を目的に沿って整理し、その趣旨の本質を正しく理解する分析力を発揮することができる。
3. DP3(3).課題解決の実践力		課題・問題に対する調査・分析から考察に至るまでのプロセスが計画的に進められ、レベルの高い最終提案、最終成果物に結びつける実践力を発揮することができる。
4. DP4(2).計画的な行動力		与えられた課題や問題解決のため、実効性のある計画を立案し、実際に行動に移すことができる。
5. DP5(1).忠恕の心		相手が伝えたいことを共感的に理解し、自分の考えや思いを適切に伝えられるよう感情コントロールを行い、取り組みのモチベーションを維持することができる。

学外連携学修

有り(連携先：西宮市大谷記念美術館)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合　　**評価の基準**

中間レポート　40　%　：　課題の意図の理解度、言語的伝達能力、および総合的な設計能力のレベルに基づく。

期末レポート　60　%　：　課題の意図の理解度、発想力の独自性、言語表現能力の水準に基づく。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業内で適宜指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業終了後

場所：　授業のある教室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** 講義の全体概要、最終課題の説明と、展覧会の実例に関する紹介。	これまでに見てきた美術館や博物館とその展覧会の中で、強く印象に残っているものを思い起こし、その特徴をまとめる。	4時間
第2回	**展覧会見学（1.須田国太郎展）** 美術館でどのように作品が展示されているのかを見学する。巡回展と短館開催の展覧会との違いを探す。 この回は、日程の近い土曜日を利用して西宮市大谷記念美術館の展覧会を見学する。 詳細は授業内で指示する。	西宮市大谷記念美術館での展示室内をはじめ、展示壁面、ガラスケース、照明など作品や資料を展示する空間や設備について観察する。	4時間
第3回	**展覧会の作り方** 展覧会が、どのように企画を立てどのような工程を踏んで開催されるのかを学ぶ。	「展覧会」とは何であるのかその考えをまとめる。	4時間
第4回	**西宮市大谷記念美術館の歴史と展覧会** 開館から50年を超える同館の歴史のなかで、どのような展覧会が開催されていったのかを学ぶ。	各美術館の歴史とその性格の差異について調べる。	4時間
第5回	**西宮市大谷記念美術館の所蔵品について** 第4回の講義を踏まえ、同館のコレクションがどのように形成されていったのかを学ぶ。	実際にどのような作品があるのかを同館のデータベースで確認する。	4時間
第6回	**課題中間発表** 最終課題に向けてどのような方向性で検討しているのか報告する。	最終課題にむけて、どのような方向性で進めているのか、各自発表する。	4時間
第7回	**展覧会見学（2.辻愛造展）** 美術館でどのように作品が展示されているのかを見学する。巡回展と短館開催の展覧会との違いを探す。 この回は、日程の近い土曜日を利用して西宮市大谷記念美術館の展覧会を見学する。 詳細は授業内で指示する。	西宮市大谷記念美術館での同じ展示室内でも前回とどのような点が異なるのか、記憶を辿りながら観察する。	4時間
第8回	**作品の取り扱い（1.洋画）** 額装の作品の取り扱いについて体験する。（実技）	額縁の基本的な構造と展示に用いる器具について調べる。	4時間
第9回	**作品の取り扱い（2.日本画）** 掛軸（日本画）の取り扱いについて体験する。（実技）	日本画の基本的な形態の種類とその各部分の名称について調べる。	4時間
第10回	**ライティングについて** ライティングを行うことで適度な光量がどの程度であるのかを体験する。（実技）	作品のライティングに用いる器具にはどのようなものや種類があるのかを調べる。	4時間
第11回	**作品調書の作成について** 際に作品調書を作成することで、作品のコンディションを確認する。（実技）	作品を熟覧してそのコンディションを目視で判断する。	4時間

第12回	**資料（キャプション・図録）の作成について** 作品展示に付随して作成される文字情報にどのようなものがあるのか学ぶ。	実践を通して自分にとって新たな発見となった点を言葉にしてみる。	4時間
第13回	**資料の展示について** 作品や作者に関連する資料の展示について学ぶ。	作品に付随して展示される資料には具体的にどのようなものがあるのか、予め調べる。	4時間
第14回	**課題（展覧会）最終発表** 企画した「展覧会」の意図・内容、作品、作品の解説を発表する。	自分の発表だけではなく、他の発表から発想や視点の違いを学ぶ。	4時間

963

授業科目名	生涯学習概論				
担当教員名	風間勇助				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	アートプロジェクト，ワークショップ等の企画運営。（全14回）				

授業概要

生涯学習とは、人が「生涯にわたって学び続ける」ことであり、その学びの場をつくるうえで文化芸術活動は重要な役割を持っています。特に美術館、博物館、公共文化ホールなどの文化施設、あるいは図書館などでもあらゆる人々に学びの場をつくろうと、ワークショップを含むさまざまなプログラムが行われています。本講義では、「生涯学習」という理念をまずは概観し、その中で文化芸術を通じて「学び、体験の場」をどのように作り出すか、グループでの実践とディスカッションを通じて考察していきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1(1).芸術・デザインに関する知識と理解	生涯学習の歴史的背景と教育的意義について学ぶ講義に加え、美術館・博物館等の文化施設における生涯学習の事例を研究する。	学術的な学修を深め、専門分野の知識を確実なものとして、自身の課題やテーマについて客観的な根拠に基づき、論述したり発表することができる
2. DP2(4).自律的な学習力	課題に関する研究・企画などを通して、自ら学ぶ力を身につける	与えられた課題を成し遂げるにあたり、質の高い成果を得るため、自らさまざまなことに興味を持ち、自律的な態度で取り組むことができる。
汎用的な力		
1. DP5(1).忠恕の心		相手が伝えたいことを共感的に理解し、自分の考えや思いを適切に伝えられるよう感情コントロールを行い、取り組みのモチベーションを維持することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則３分の２以上の出席者を成績評価の対象とする。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内小レポート	30 %	： 生涯学習に関する授業内容についてよく理解し、自身の意見を文章で述べることができているかを評価する。
グループ課題に対する取り組みの貢献度	40 %	： グループ課題に対する意欲的な参加姿勢を評価する。
試験（期末レポート）	30 %	： 授業を通して学んだことを元に、与えられたレポート課題に対して必要な研究・分析を行い、独自の意見を文章で述べているかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業ごとに適宜資料配布・文献紹介を行う。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
学外の文化施設を見学する場合があります（未定）。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後の時間

場所： 授業のある教室

備考・注意事項： 授業前後、授業中以外の質問は、メールで受付ける。メールアドレスは授業内で周知する。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**イントロダクション：生涯学習の理念と文化芸術の担う役割** 生涯学習の理念を理解し、その中で文化芸術の担う役割について考える。	講義内容の復習：生涯学習の理念と文化芸術の担う役割について理解する	4時間
第2回	**生涯学習の歴史的意義と現代の動向** 日本に生涯学習が導入された経緯を学び、現代の生涯学習のあり方を国内外の事例から考える。	講義内容の復習：日本における生涯学習導入の経緯、国内外の生涯学習事例をリサーチする。	4時間
第3回	**文化施設における生涯学習：博物館・美術館・公共文化ホールの取り組み** 実際に博物館、美術館、公共文化ホールで行われている生涯学習プログラムの事例を研究する。	講義内容の復習：ワークショップ・レクチャー等の文化芸術プログラムの事例リサーチ	4時間
第4回	**生涯学習と地域文化振興：コミュニティー・アート、アートプロジェクト** 生涯学習における地域文化振興の事例について学ぶ。	文化ツーリズム、コミュニティー・アート、アーティスト・イン・レジデンス等の事例リサーチ	4時間
第5回	**ワークショップのケーススタディー①：参与観察** ワークショップのケーススタディーを行い、実際の事例について学ぶ。	事例研究：参与観察のレポートを作成する。	4時間
第6回	**ワークショップのケーススタディー②：分析・考察** ワークショップのケーススタディーを行い、与えられた事例を元に分析・考察する。	事例研究：参与観察を元にグループワークで事例の分析考察を行う。	4時間
第7回	**ワークショップのケーススタディー③：グループ発表** これまでのケーススタディーを元に、グループで発表を行う。	グループ発表のまとめ資料を作成する。	4時間
第8回	**実践編：模擬ワークショップ　①　参加者として体験する** 学芸員・アーティストによるレクチャーおよび模擬ワークショップの実施。	模擬ワークショップを参加者の視点から検討し、レポートにまとめる。	4時間
第9回	**実践編：模擬ワークショップ　②　企画のためのアイディア** 模擬ワークショップを体験後、ワークショップ企画立案についてディスカッションを行う。	模擬ワークショップを企画書の視点から検討し、レポートにまとめる。	4時間
第10回	**ワークショップの企画立案①　具体的内容、対象者の確定** ワークショップのテーマ、対象者をグループワークで議論し、策定する。	グループ・ワークシートの作成：グループで議論したことをまとめる	4時間
第11回	**ワークショップの企画立案②　企画の詳細の決定と実施計画** ワークショップの企画概要の策定とコーディネートをグループワークで議論し、実践にあたっての必要な情報の収集、考察を行う。	グループ・ワークシートの作成：グループで議論したことをまとめる	4時間
第12回	**ワークショップの企画立案③　実施に向けた準備作業** ワークショップに必要な事前準備を行う。	グループワークで必要な事前準備を行う。	4時間
第13回	**ワークショップの企画立案④：実施** ワークショップを実施する。	講義内容の復習：実施状況をまとめる。	4時間
第14回	**ワークショップのフィードバックとまとめ** 実施したワークショップについて考察を行い、課題を抽出する。講義・参与観察・実践を通じ学んだ内容の総括を行い、生涯学習の今後の課題についてまとめる。	講義内容の復習：実践した内容を報告書にまとめる	4時間

963

授業科目名	博物館経営論				
担当教員名	嶋本尚志				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	寺院での学芸員業務を経験。展覧会の企画・実行や事務を担当。(全14回)				

授業概要

博物館が現在直面している課題や社会の中で果たすべき役割について考えていく。はじめに博物館の歴史を概観し、それぞれの時代どのような役割を果たしてきたかをみていきたい。その際には日本だけでなく、欧米やアジアの博物館史をあわせてみることで、各地域での特徴を比較する。次に、博物館経営（運営）に関する、制度・財政・広報・建築・組織といった様々な観点から、博物館をとりまく現状や課題をみていきたい。特に現在は地域との連携が重要であり、地域にとって博物館はどのような存在になるべきかを考えていきたい。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1(1).芸術・デザインに関する知識と理解	博物館や現在の文化行政等に関する歴史的・専門的な知識。	学術的な学修を深め、専門分野の知識を確実なものとして、自身の課題やテーマについて客観的な根拠に基づき、論述したり発表することができる。
2. DP2(4).自律的な学習力	自発的な見学などを通じ博物館活動に関する情報・知識を収集し、自身の考えに反映できるようにする。	与えられた課題を成し遂げるにあたり、質の高い成果を得るため、自らさまざまなことに興味を持ち、自律的な態度で取り組むことができる。
汎用的な力		
1. DP5(1).忠恕の心		相手が伝えたいことを共感的に理解し、自分の考えや思いを適切に伝えられるよう感情コントロールを行い、取り組みのモチベーションを維持することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回のコメント	30 %	： 毎回の講義内容に即した事項に対し、自身の意見が述べられているかという点で評価します。
試験（期末レポート）	70 %	： 博物館・学芸員の基本的な知識や課題についての理解度を期末のレポートにより評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献：授業中に適宜紹介する

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
自主的な博物館見学や博物館関連の取り組みなどの情報収集などの「授業外学修課題」に取り組むことに加え、それらの活動を通じ、授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業時間の前後

場所： 授業を行う教室

備考・注意事項： 質問は授業の前後に答えます。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**博物館の現在** 博物館が置かれている今日の状況について、具体的なデータや博物館の活動を通じて、問題点の確認および求められる社会的役割・課題を考える。	博物館の現状の問題点を確認し、その原因を考える	4時間
第2回	**社会的役割からみる博物館史１　欧米・アジアの博物館** ヨーロッパ・アメリカ・アジアの主要な博物館、大英博物館・ルーブル美術館・スミソニアン博物館・故宮博物院などの博物館を中心に、どのように成立したかを、歴史的・社会的背景の中で概観する。	背景となる世界史の復習	4時間
第3回	**社会的役割からみる博物館史２　日本篇１（古代から近世）** 日本の古代から近世までの歴史の中で、博物館的活動がどのように行われていたかを概観し、日本での近代的博物館成立までの流れを考える。	古代から近世の日本史の復習	4時間
第4回	**社会的役割からみる博物館史３　日本篇２（近代）** 明治以降の近代的博物館の成立や現在までの社会的役割の変化の過程・背景を概観する。その中で各時代を通じて、日本の博物館の特徴を考える。	近代の日本史の復習	4時間
第5回	**博物館のマネジメント** 博物館の運営に関して、ミュージアムマネジメント、マーケティング、自己評価などの活動がどのように行われているかをみて、博物館の果たす役割を考える。	実際の博物館がどのような活動を行っているかを調べる	4時間
第6回	**博物館の組織とミュージアムネットワーク** 学芸員をはじめとする博物館の組織のあり方について、具体例を紹介する。各地で行われている博物館同士のネットワークの特徴をみる。	博物館の組織についての復習	4時間
第7回	**ミュージアムショップ** 博物館の財政の考え方、博物館におけるミュージアムショップの役割について考える。	ミュージアムグッズやミュージアムショップの在り方を調べる	4時間
第8回	**建物としての博物館** 博物館の施設・立地・建築物としての特徴や文化財を利用する場合など、その特徴や機能を考える。	博物館建築の特徴を復習	4時間
第9回	**文化財行政と博物館に関する制度** 国や自治体の文化財に関する諸制度や博物館に関わる法律から、行政が博物館に何を求めているかを考える。	文化財の種類や区分の復習	4時間
第10回	**博物館の広報活動** 博物館が行っている広報活動について、特別展の時だけでなく日常どのようにおこなわれているか。	博物館の広報活動について（特別展時と平常時）の復習	4時間
第11回	**博物館の危機管理** 火災・盗難などの日常的なトラブルや天災などの災害、博物館に関する事件を通じてみた危機管理について。	博物館にどのようなリスクがあり、その対応を調べる	4時間
第12回	**地域社会と博物館１　地域に根ざす博物館活動** 地域社会との連携や地域にねざす博物館活動の事例紹介を通じ、地域と博物館の関係を考える。	地域博覧会に関する復習	4時間
第13回	**地域社会と博物館２　博物館と観光・京都博覧会** 明治期を中心に行われた京都博覧会の特徴や展開を通じ、近代における具体的な地域規模での博物館的活動を学ぶ。また、その中から地域での博物館活動、特に観光と関わり方を考える。	地域の博物館活動に関する復習	4時間
第14回	**エコミュージアムの考え方** エコミュージアムの概念や日本や海外での事例紹介から、博物館の外に広がる博物館活動について。	各地のエコミュージアムについて調べる	4時間

964

授業科目名	**博物館実習**				
担当教員名	岩田真由子				
学年・コース等	4年	開講期間	前期	単位数	3
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

博物館実習は、学内での授業と、夏休みもしくは授業期間内に行なわれる数日間の館園実習とからなる。授業は、①資料の取り扱いに関する実習、②博物館の見学、③特別展の企画の３つを中心に行う。①は学芸員として身につけておくべき基本的な資料の取り扱いや業務について学習する。②は様々な目的と理念とをもつ博物館の見学を行ない、比較考察をする。③は企画書作り、ポスター制作・発表までを行う。この授業は、実習博物館での実習の事前指導でもあり、受講態度には厳しさが求められる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1(1).芸術・デザインに関する知識と理解	資料の取り扱いに関する知識	学術的な学修を深め、専門分野の知識を確実なものとして、自身の課題やテーマについて客観的な根拠に基づき、論述したり発表することができる。
2. DP2(2).対話により伝える能力	発表や質疑応答の技術	聞く力、伝える力を発展させ、対話を通じて有益な結果を導き出せるような発展性ある対話力を身につける。
汎用的な力		
1. DP4(1).取組みへの主体性		与えられた取り組みに対して興味を持って積極的に行動し、柔軟な態度で、高い成果を得られるような主体性を発揮できる。
2. DP4(2).計画的な行動力		与えられた課題や問題解決のため、実効性のある計画を立案し、実際に行動に移すことができる。
3. DP4(3).自己の役割理解と他者との協働力		社会を構成する自立した人間に必要な協働できる素養として、自己の役割を理解し、他者との協働の利点を理解しながら、倫理観に基づいた十分なコミュニケーションのもと活動を円滑に進捗させることができる。
4. DP4(4).状況に応じたコミュニケーション能力		与えられた課題や目的のために、他者と円滑で有意義な意思疎通ができ、双方にとって望ましい結果を得られる豊かなコミュニケーション能力を身につけている。
5. DP5(1).忠恕の心		相手が伝えたいことを共感的に理解し、自分の考えや思いを適切に伝えられるよう感情コントロールを行い、取り組みのモチベーションを維持することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

・その他(以下に概要を記述)

授業の中間段階および最終段階において、ルーブリックを用いて、学修到達状況を確認し、学生へフィードバック行います。文章での振り返りも行います。これによって学生たちは自分の成長の度合いを自分で知ることができます。演習授業の制作物は、学修成果ポートフォリオにまとめていきます。以上を総合して評価を行います。

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
受講態度（発表含む）	60 %	： 知識の習得に対する意欲や積極性を評価する。また、授業内で修得した知識に基づき資料を正しく取り扱うことができているかを評価する。ルーブリックに基づき評価し、点数化する。
授業内の課題	20 %	： 発表や課題に対する意欲や積極性、完成度を評価する。
館園実習	10 %	： 積極的な態度で実習に参加できたかを評価する。
試験（期末レポート）	10 %	： 授業を通じ、博物館の役割や業務についてどの程度理解できたかについて、評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業中に随時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は３単位の科目であるため、全体で１３５時間の学修が求められる。実習に参加するだけでなく、日々の準備や振り返り、事前・事後学修にも十分に力を入れること。

実習であるため、出席厳守。見学日は、週末に行く場合もあるので、見学日時発表後にスケジュールを確認しておくこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業時間の前後

場所：　授業の教室

備考・注意事項：　授業の前後の時間に質問に対応する。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**博物館実習の心構え** 博物館実習に際しての心構えについて述べ、必要な事柄を整理する。また、各学生の実習館についてヒアリングし、リサーチを進める。	これまで習った博物館に関する知識について復習する。	6時間
第2回	**博物館資料の取り扱い－掛け軸・巻物－** 掛け軸・巻物の取り扱いについて実習を通して学ぶ。	掛軸・巻物の部位の名称、取扱いについて配布プリントで復習する。	6時間
第3回	**拓本実習** 拓本の採取方法について実習を行い、習得する。	拓本の採取方法について、配布プリントで復習する。	6時間
第4回	**展示企画書作成実習** 展示企画について学び、課題として提出する展示企画書の作成方法について説明する。	展示企画書を作成する。	6時間
第5回	**博物館・美術館見学①－文化財保護を考える－** 遺跡の発掘・保存を紹介する博物館の見学を行う。	見学した博物館について、自分の設定したテーマに沿いまとめる。	6時間
第6回	**裏打ち実習** 拓本実習で採取した拓本を補強するための裏打ち実習を行う。	裏打ちについて、授業内容を復習する。	6時間
第7回	**博物館・美術館見学②－地域に根ざした博物館－** 地域の歴史博物館の見学を行う。	見学した博物館について、自分の設定したテーマに沿いまとめる。	6時間
第8回	**絵巻を読む（１）縁起絵巻** 縁起絵巻に書かれた仮名文字を読む実習を行う。 中間ルーブリックの実施、学生へフィードバック	授業中に読んだ仮名文字の資料を復習する。	6時間
第9回	**絵巻を読む（２）物語** 物語絵巻に書かれた仮名文字を読む実習を行う。	授業中に読んだ仮名文字の資料を復習する。	6時間
第10回	**10. 博物館・美術館見学③－研究機関の博物館－** 研究を主要な役割として担う大学共同利用機関の博物館の見学を行う。	見学した博物館について、自分の設定したテーマに沿いまとめる。	6時間
第11回	**博物館資料の取り扱い－箱・茶道具－** 茶道の歴史を確認し、茶道具と茶道具を入れた箱の扱い方について実習も交えて学ぶ。	配布した資料を中心に、茶道具と箱の扱い方について復習する。	6時間

第12回	**博物館・美術館見学④－自然科学系博物館－** 自然科学系の博物館の見学を行う。	見学した博物館について、自分の設定したテーマに沿いまとめる。	6時間
第13回	**博物館資料の取り扱い－和本－** 和本の構造と修復方法を理解するために、和本を作る実習を行う。	配布した資料を中心に、和本の構造と修復方法を復習する。	6時間
第14回	**発表（展示企画・広報ポスターと見学のまとめ）** 各自で企画した特別展の内容とその広報ポスターについて発表する。また、4回の博物館見学に関して、各自の設定したテーマに沿った発表をし、情報のまとめを行う。最終ルーブリックの実施、振り返りシートの作成、学修成果の可視化（ポートフォリオ）	ポスター・発表レジメを作成し、発表内容について準備を行う。	6時間